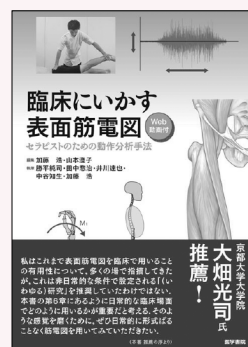


臨床にいかす表面筋電図 [Web動画付] セラピストのための動作分析手法

加藤 浩, 山本澄子 (編)

B5判・160頁
定価：本体4,500円+税
医学書院刊, 2020年



リハビリテーションの見える化の 大きな一歩となり得る書

〔評者〕遠藤正英 桜十字福岡病院リハビリテーション部

私が就職した時代、動作解析装置などの客観的な評価ができる機器は高価で計測の手間もかかり、臨床現場で用いることはほとんどなかった。そのような機器は、臨床現場で使用するというより、研究者がデータを取るために用いるものというイメージが先行していた。そのため、臨床現場においては、動作分析などの多少の主観的な内容を含む評価のみとなり、その解釈に苦しむことが多々あった。しかし近年、安価で容易に計測可能な評価機器が多く開発され、臨床現場においても使用される機会が増えつつあり、使用している施設では科学的根拠に基づいたリハビリテーションを実施するうえで、必要不可欠なものとなった。

その1つに表面筋電図が挙げられる。表面筋電図は安価に容易に計測できるようになり、かつては動作分析を行い筋活動を推測するという主観的な方法に頼って

いた動作時の筋活動が、どのような動作を行ったときに、どの筋が活動しているかという客観的な評価が容易にわかるようになった。客観的な評価が可能になったことで、問題点の具体化、それをもとにしてアプローチ方法の見直しなどを行うことが可能になり、より効果のあるリハビリテーションを実践するには必要不可欠なものとなった。しかし、表面筋電図を臨床現場で使用するにあたり、使用方法や解析方法など、使用したことのない人にとってはある種のアレルギーのように感じてしまい、その入り口が狭くなっているのも事実である。

本書を読めば、多くの人がリハビリテーション専門職が抱えている一種のアレルギーを克服し、臨床現場で表面筋電図を当たり前で計測することができ、リハビリテーションがさらに一歩前進するという期待を抱いた。内容としては基礎的な知識、計測方法から解析

方法まで細かに説明されている。今まで表面筋電図を使用していなかった人にとっては、表面筋電図を使用するためのバイブルのようになると思う。そして表面筋電図を今まで使用していた人にとっても、計測方法や解析方法を具体的に例も交えて説明してあるため、計測をよりよいものにすることができると思う。また随所に動画が使用されているため、文字ではわかりにくい部分も目で見ることができ、より実践的に理解することができる内容になっている。

われわれリハビリテーション専門職にとって主観的な評価では足りない部分、そして主観的な評価では勘違いしている部分を客観的に理解することは、患者にとって有益なリハビリテーションを提供する第一歩である。本書がこれからのリハビリテーションの見える化の大きな一歩となり得ると感じる次第だった。